

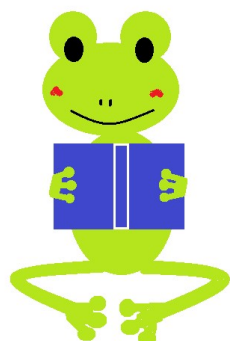
中学生版

うち

家

どく

読



子どもたちが選んだ春日部うちどく本リスト

春日部市教育委員会

< はじめに >

この冊子は、家庭の読書習慣をさらに充実するための「家読（うちどく）」※）ブックリストです。

ブックリストの作成にあたっては、春日部市の小・中学校の児童生徒にアンケート調査を行い、「家族や友だちに読んでもらいたい本」を推薦してもらいました。ブックリストで紹介している本には、子どもたちからのおすすめコメントも掲載しています。

「家読」には、決まったルールはありません。「家族が同じ時間に読書をする」「家族の誰かに本を読んでもらったり、読んであげる」「家族どうしで本の感想を言い合う」など、家族の形態や生活時間に合わせて読書を楽しむことで、本を通して家族の絆を深めるものです。

このブックリストが、楽しい本との出会いと家族の大切な思い出作りの道しるべとなるように願っています。

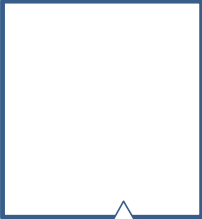
家読（うちどく）※）…「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味し、家族みんなで読書することで家族のコミュニケーションを深めることを目的にした読書運動

（凡例）

●掲載順は以下のとおりです

・絵本→画家名順 物語→作者名順 その他は図書館での分類順

●各事項について

書名	著者名・出版社	ジャンル
1 『〇〇〇〇』	〇〇/作 〇〇	絵本
	本のあらすじ、内容	
本の表紙画像	 おもしろかった！	
	子どもたち、司書職員からの おすすめコメントです	
	 子どもたちの コメント	 司書職員の コメント

家 読

<中学生>



1 『吹部!』 赤澤 竜也/作 KADOKAWA (角川文庫)

物語



沙耶は平凡な女子高生。廃部寸前の吹奏楽部でのん気に活動していたが、三田村が顧問になり状況は一変。空気を読まず子どものような態度で、強引な指導をする三田村に部員たちは猛反発。しかし、彼らの演奏はどんどん上達し、弱小部が全国コンクールを目指すことに…。



吹奏楽のドロドロしているところがすごい現実感あり

2 『蜘蛛の糸・杜子春』 芥川 龍之介/作 新潮社

物語



ある日、極楽にいるお釈迦さまが地獄の底を見ると、大どろぼうの犍陀多が苦しんでいました。お釈迦さまは、生前に蜘蛛を助けたことがある犍陀多を救ってやろうと、蜘蛛の糸を下にたらししました。犍陀多は、その銀色の糸を見つけてのぼりはじめますが…。(『蜘蛛の糸』) 他9作品が入った短編集。



一回でも罪を犯した者は救いが来ても必ず地獄に落ちてしまうのがポイント

3 『The MANZAI (ザ マンザイ)』 あさの あつこ/作 ポプラ社

物語



中学2年の秋、転校生の歩は同じクラスの秋本から突然、漫才コンビを組もうと申しこまれた。ある理由で心を閉ざしていた歩は断ろうとするが、強引なノリの秋本に巻きこまれっぱなし。ついに文化祭で、「漫才ロミオとジュリエット」をやることになってしまう。



人と人との関係がいい

4 『旅猫リポート』 有川 浩/作 講談社

物語



野良猫のナナは縁あってお人よしのサトルの猫になった。それから5年。たがいにかけがえのない存在となったサトルとナナは、車に乗って旅をしていた。サトルは、ナナの新しい飼い主を探すために昔の友人達のもとを訪ねているのだ。ナナを手放さなくてはならないサトルの事情とは…。



主人公とナナという猫が最後の旅に出るところがいい

5 『オリエント急行殺人事件』 アガサ・クリスティ/作 茅野 美どり/訳 偕成社 物語



大雪で立ち往生した国際寝台車オリエント急行の車内で一人の男が殺された。外から人が乗りこむことは不可能。その上、乗客全員に完璧なアリバイがあった。偶然列車に乗りあわせた名探偵ポアロが、謎だらけの密室殺人に挑む。



殺人事件を主人公と一緒に推理していくのがおもしろい。

6 『精霊の守り人』 上橋 菜穂子/作 偕成社 物語



腕の立つ女用心棒バルサは、偶然、新ヨゴ皇国の第二皇子チャグムの命を救った。幼い皇子に“おそろしいモノ”が宿ったため、実の父に殺されかけたという。バルサは、皇妃の頼みで宮廷から皇子を連れ出し、追手からのがれるうちに、皇子の背負う宿命を知ることになる。



1人1人のキャラクターが面白く、この本にひきこまれるようにページをめくる手が止められませんでした。

自然を舞台にした、独特の世界観に引き込まれます！

7 『ある晴れた夏の朝』 小手鞠 るい/作 偕成社 物語



アメリカの高校に通う日系アメリカ人メイは、広島と長崎への原爆投下についての公開討論会に参加することになった。日系だが日本を知らないメイをはじめ、人種や育ちの違う高校生8人は、調べるうちに原爆投下の意味をそれぞれ考え始める。彼らは討論会で何を語り、聴衆の心に何を響かせるのか。



原爆投下の悲惨さを初めて知ることができた。

8 『一瞬の風になれ』 佐藤 多佳子/作 講談社 物語



中学サッカー一部で活躍できなかった新二は、天才スプリンターで幼なじみの運とともに、高校の陸上部に入部した。陸上初心者ながらも、風を感じる疾走感、リレーで仲間にバトンをつなぐことに魅せられた新二は、走ることにのめりこんでいく。目指すはインターハイ！



走るのが好きで好きでしょうがない気持ちが伝わります。

9

『太陽の戦士』

ローズマリ・サトクリフ/作 猪熊 葉子/訳 岩波書店

物語



時は青銅器時代。片腕が使えない少年ドレムは、友人とともに一人前の戦士を目指し修業を積んでいた。しかし、戦士となるための試練であるオオカミ殺しに失敗し、家族や親友と別れて羊飼いやとして生きる決意をする。



障がいをもろともせず戦士を目指す姿がいさましくすばらしいです。

10

『青空のむこう』

アレックス・シアラー/作 金原 瑞人/訳 求龍堂

物語



交通事故で突然死んでしまったハリーは、気づくと<死者の国>にいた。家族や学校の友だちがどうしているか知りたい、けんか別れしたお姉ちゃんと仲直りしたい。「やり残したこと」のために、ハリーは禁を破って<生者の国>に戻り、幽霊となって身近な人たちの元を訪れる。



主人公が死んだ人というのがおもしろい。

11

『卵の緒』

瀬尾 まいこ/作 新潮社

物語



育生は自分のことを捨て子だと思っている。母さんに問いただしても、いつもふざけたような答えしかくれないが、とにかく育生のことが大好きなようだ。ある日、育生がへその緒を見せてほしいとお願いすると、母さんは育生を卵で産んだのだと言いだした。様々な家族の姿を描く短編集。



命の大切さ、尊さについて深く考えなおすことができ、どれだけ恵まれた生活を私たちがしているのかを知ることができる。面白いところもありおすすめです！

12

『ぼくらの七日間戦争』

宗田 理/作 ポプラ社

物語



東京のとある中学校での1学期最後の日、1年2組の男子生徒全員が姿を消した。彼らは、河川敷の工場跡を、子どもだけの“解放区”にして立てこもったのだ。大人達に不満を持ち反乱をおこした彼らを説得しようと、教師や親達は大混乱。マスコミを巻き込み、誘拐事件もからんで、騒動はどんどん大きくなっていく。



同年代の人が主人公なので共感できる部分が多い。

子どもたちの悪知恵が最高。

13

『かがみの孤城』 辻村 深月/作 ポプラ社

物語



中学に入学してすぐ学校に通えなくなったところは、突然光り出した部屋の鏡の中から謎の城に招待される。そこには、こころを含めて7人の中学生が集められていた。招待したのは狼の面をかぶった少女。彼らは、なぜ集められたのかわからないまま、見つけた人の願いをかなえてくれる「願いの部屋」の鍵を探すことに…。



かなり分厚いけど、
その分内容も濃くて
読んで損しない

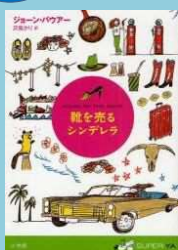
感動のラスト。読み終わっ
た後温かいきもちになる

今まで読んだ中で一番の
作品で一気に読んで
しまいました

14

『靴を売るシンデレラ』 ジョーン・パウアー/作 灰島 かり/訳 小学館

物語



靴屋でアルバイトをする女子高生ジェナは、客の望み通りの靴がわかる優秀な販売員。その才能をみこんだ靴屋の女社長に運転手として雇われ、行動を共にするように。やがて、社長の息子が会社を乗っ取ろうとしていることを知ったジェナは、社長に協力して企^{たくら}みを阻止^{そし}しようとする。



ジェナが生き生きと仕事をしている姿が本当にすてきです

15

『二年間の休暇』 ジュール・ヴェルヌ/作 私市 保彦/訳 岩波書店

物語



子どもだけが乗る船が嵐で遭難^{そうなん}した。無人島に流れ着いた15人の少年達は、助けが来るまで協力して生き抜かなければならない。謎の多い島で衝突ばかりしていた少年たちは、やがて互いを認め、助け合うようになる。『十五少年漂流記』というタイトルでもおなじみの冒険小説。上下巻あり。



一度読んだら続きが気になる本です

16

『ねらわれた星（星新一ショートショートセレクション①）』

星 新一/作 理論社

物語



村はずれの山近くの^{やしろ}社が台風で流され、そのあとに直径一メートルほどの深い穴があいていた。利権屋^{りけんや}が目をつけて、穴に^{げんしよ}原子炉のカスや都会のゴミを次々と投げこんでいくが…。(「おーい でてこーい」) 笑える話、皮肉な話、ぞっとする話がつまった短編集。



一つ一つが短く気軽によめる

17 『たまごを持つように』 まはら 三桃/作 講談社

物語



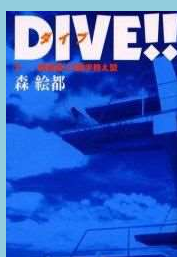
弓道部員の早弥は、不器用だが頑張りやの中学2年生。弓道の天才でマイペースな実良、ハーフで目立つ外見だがいつも冷静な春とともに地道に練習を重ねてきた。しかし、大会前に実良がスランプにおちいり、自信のない早弥が試合に出ることに…。



心を静かに的を射る弓道。やってみたくになります。

18 『DIVE!!』 森 絵都/作 講談社

物語



中学生の飛び込み選手知季が通うダイビングクラブに、女性コーチ麻木がやってきた。強引な麻木は、存続の危機をむかえるクラブを救うためにオリンピック選手を育成するといい、知季に天性の素質を見出して厳しい特訓を始める。



地上10mからのダイブで繰り広げられる中高生たちの戦い、それぞれの思いに胸が熱くなります。

19 『あのころはフリードリヒがいた』 ハンス・ペーター・リヒター/作 上田真而子/訳

岩波書店 物語



ヒトラーが政権を握り、ユダヤ人への迫害が日々増すドイツ。ユダヤ人の少年フリードリヒとその一家もまた差別を受け、家を破壊され、次第に命の危険にさらされてゆく。幼なじみのドイツ人少年から見た、一人のユダヤ人少年フリードリヒの死までの日々を描く。



友情も、生活も、人間らしさも命も、すべてが突然に奪われる。戦争と人種迫害の悲惨さを知ってもらいたいです。

20 『中学時代にしておく50のこと』 中谷 彰宏/著 PHP研究所

生き方



「ムダなこと」をしよう、「たった1人の友達」をつくろう、給食係になろう…。中学時代のドキドキは、一生のうちで最高のドキドキだという著者が、自分の経験をもとに中学生に向けたユニークな50のアドバイス。



とても役に立つ！



著者の独特な考え方が
おすすめポイント。

21

『君たちはどう生きるか』 吉野 源三郎/著 マガジンハウス

生き方



正義感の強いコペル君は中学2年生。クラスメイトが理不尽ないじめにあっていたのに、助ける勇気が出なかったことを深く悔やんでいた。ついに寝こんでしまったコペル君は、悩みを叔父さんに相談する。叔父さんから来た手紙に書いてあったことは…。



自分とてらしあわせながら見られておもしろい本です。

22

『ジュニア空想科学読本』 柳田 理科雄/作 藤嶋 マル/絵

KADOKAWA (角川つばさ文庫) 科学



「かめはめ波はどうすれば撃てるのか?」「タケコプターで空を飛べるか?」「なぜ目玉のおやじは目玉だけで生きられるのか?」マンガや絵本などの空想の設定を、大真面目に、科学的に検証すると結果はどうなるのか?



文章がおもしろおかしくかいていて様々なジャンルがあるから読みやすい。

理科が嫌いな人は人生6割損してる。ツツコミがおもしろい!!

23

『わたしと小鳥とすずと(金子みすゞ童謡集)』 金子 みすゞ/著 JULA出版局 詩



「みんなちがって、みんないい。」「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」小さいものや力の弱いもの、身近にあるささやかなものに目をとめて言葉をつむいだ童謡集。



とてもすばらしい。文章がきれい。

24

『もものかんづめ』 さくら ももこ/著 集英社

エッセイ



©S. P

思春期に水虫になってしまい、生活の大部分を独特の水虫研究に費やす情けない日々、夢見る女子高生時代に書いていた恥ずかしいポエム、娘の結婚式で挙動不審な父ヒロシ…。まんが『ちびまるこちゃん』の作者が自分の体験を書く、笑いがいっぱいのエッセイ。



読書が苦手な人でも読みやすい、面白い。

おもしろい話、意図がつかめない話、身近な話などたくさんのお話ののっている。